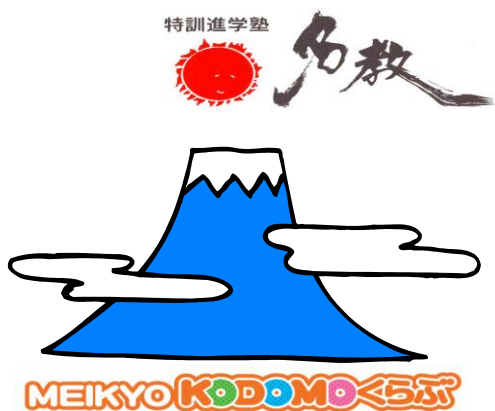


ほっふ
すてっふ
じゃんぷ



2012年版 第4号

塾長コラム

あんぱんち

第二十七回

梅雨の合間に、今日は天気がいいなと思うと、最高気温が30度を超える真夏日となり、夏が近づいているなど感じます。子どもたちとの会話でも、「今日、プールに入った!」「夏休みに、〇〇に行く!」「夏期講習、やだっ!」(笑)など、夏の話が多くなってきました。

さて、この時期になると、学校からの手紙を読んでも、夏に関する話題が多くなります。熱中症のこと、短縮授業のこと、夏休みのことなど・・・。そのようなお手紙やいろいろな教育雑誌には、「成功する!夏休みの過ごし方」とか、「夏の学習方法」といった記事が数多く掲載されています。著者によって、いろいろなアイデアがあるようですが、各種記事を参考に、私からもその点をお話させていただこうと思います。家族旅行や、習い事の短期教室など、子どもたちの夏のスケジュール作りに頭を悩ませた方も多くいらっしゃると思いますが、充実した夏休みを送る一助になれば幸いです。

まずは、生活習慣についてです。百ます計算の陰山氏が言う「早寝、早起き、朝ごはん」をしている子どもの方が、それらをしない子どもよりも、成績がいいのはなぜでしょうか。朝ごはんをとると脳が活性化するなど、いろいろな要因があるでしょう。他の要因として、1日の生活リズムが整うからと考えることができます。1日のスタートを決まった形で切り、1日のリズムをしっかりと守ることは、やるべきことをやる生活習慣につながる

のです。当然、勉強も習慣化します。ですから、夏休み中も、旅行中など特別な日は除き、学校があるときと同じリズムを作ることが大切なのです。

具体的には、「夏休み中の時間割」を、子どもといっしょに作って、その通りに過ごさせるのが良いと思います。私事ですが、愚息にも毎年、そうさせています。「1時間目 夏の生活、2時間目 家用のドリル、3時間目 なわとび、4時間目 ピアノ、5時間目 手伝い」といった時間割です。1時限を学校と同じ小学校45分、中学校50分と定め、放課(休み時間)や、午後からの遊び時間もきちんと入れると、リズムカルになっていいと思います。この時間割の前後の起床時間、就寝時間は、普段と変えません。これまで、学校後の生活が不規則になっている人たちも、この夏休みを機会に生活のリズムを作ると、9月からのリズムも出来ると思います。

次に、勉強の内容についてです。日々の学習としては、学校の宿題や塾の課題を少しずつ、進めるのがいいと考えます。加えて、大切なのが、長い休みを活用した、自由研究や体験学習などです。いろいろな体験を通して心身を鍛えることは、この時期しかできません。例えば、植物や昆虫の継続観察、調べ学習、科学実験、工作、植物採集、旅行記録などです。途中でつまずいても、アドバイスや励ましの言葉をかける程度にし、子どもたちに最後までやりぬかせることが大切です。主体性を持った子どもになってほしいと願うからです。

このように、夏休みは、「生活リズム」と「主体的な学習」に、ぜひ気を配ってあげてください。その方が、勉強に対して、積極的になる近道だと思います。

塾長 西川 陽祐

今月の論語

子曰わく、学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦樂しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや。

この文章の始めの部分は、「学んだことは復習をしつかりとして、実際の社会においてそれを実践する。そのようにして学問が活かされて人様に喜ばれたときに、心から嬉しくなる」という意味です。

たとえば、「人に親切にしましょう」と、学校で習いますが、ここで止まっていた意味がないのです。重い荷物を持って困っているお年寄りを見かけたら、その荷物を持ってあげる。その人が「ありがとう」と感謝してくれたとき、みなさんはうれしい気持ちになるでしょう。

次の「朋あり、遠方より来たる、亦樂しからずや」は、「志を一つにした人たちが遠くから集まって、一緒に勉強する。これは本当に楽しいことだ」という意味です。お互いの考えを確かめ合うなかで、お互いに心を磨き合うことが肝心なのです。ときには反発し合うこともあるでしょうが、反発されることで、「そうか、自分はこれだけの範囲で物事を考えていたけれど、別の見方もあるんだな」とわかつくるのです。そうすることによって、自分の視野が広がっていくのです。

最後の、「人知らずして慍みず、亦君子ならずや」は、どんな意味でしょうか。

「自分は一所懸命勉強しているのに、誰も自分のことを認めてくれない。世の中って面白くないなあ」というのが「慍

(む)」です。

でも、そんな恨み言をいうような勉強は自分磨きの勉強とはいえません。自分を磨くというのは自分自身のためにするもので、人が認めるかどうかは関係ないのです。

人に認められたらそれが正しい意見だと勘違いをしてはいけません。人(世間)から認められなくても、自分が正しいと思うものは何かを常に追い求めいく。その姿こそが君子であると孔子はいつています。ただし、自分の意見が正しいという真実を突き詰めるためには、必ず一所懸命勉強することが大事です。

つまり孔子は、「勉強は非常に大切です。学ぶことが人生をつくるんですよ」といつているのです。

参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」』(致知出版社)

「今月の論語」のコーナーは今回で終わります。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 33

校外学習でどこかの建物に入るときは、おしゃべりをしないこと。きみたちがいることをだれにも気づかれないくらい静かに入ろう。このルールは、映画館、教会、劇場、その他、人の集まるすべての建物に入るときに適用される。

ルール 34

校外学習に出かけたときに、訪問先の何かをほめるのはいいことだ。だれかの家を訪ねたときには、たとえば、すてきなカーテンですね、というようにその家の何かをほめるのもすてきなマナーだ。同じように、博物館や美術館、劇場を訪ねたときには、建物の美しさをほめたり、案内役の人に、設備が素晴らしいと思うと感想を伝えるといいだろう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より